

東日本大震災医療支援活動について

長岡市・高木内科クリニック

高木 正人

3月30日（水）と31日（木）の昼休みに、避難所のロングライフセンターに医療救護に行ってきました。ロングライフセンターは養護学校の裏手の小高い丘陵の中にあり、普段は近隣のお年寄りが午前中よりおにぎりやお菓子をもち込んで、お風呂に入ったりカラオケを歌ったりして一日を過ごす所と聞いていました。初めて見るロングライフセンターの外観は、打ちっばなしのコンクリートの壁に雪解け水の黒い染みがにじんでおり、駐車場の隅には残雪も残っていて、閉鎖された工場のようにとても寂しい感じがしました。冷たい強風の中、玄関の扉を開けて中に入ったとたん、そこは春を感じさせる暖かい空間でした。出迎えてくれた長岡市の職員の方も穏やかで、避難者も広い畳のお部屋の中にぽつんぽつんと点在している感じでした。また個室もいくつかありました。この避難所には妊婦さんと病気の人とその家族しか入っていないと聞いて納得しました。妊婦さん達は丁度、青少年文化センターのプラネタリウムを見に出かけており留守でしたので、お年寄りのみ診察いたしました。食事が3食ともお弁当のた

めか野菜不足で、人工肛門の方が便秘になったと訴えていましたので、この近くのスーパーで野菜を買うように家族に話をしました。

廊下にはサイズごとに仕分けされて、ダンボールに入った洋服が並べられていました。また、男女別のお風呂やエアロバイクなどの運動器、そしてマッサージチェアなどいろいろな設備が整っていました。

二日目に訪問したときには、心房細動を合併した心不全の新しい避難者が入所されていました。当然紹介状は無く、幸い薬の説明書を持参されていたので、近くの循環器専門医を受診するように話をしました。

他の体育館などの避難所では多くの方が入所されており、それは大変なことになっていると聞いていましたが、このロングライフセンターは格別環境が良いように思われました。しかし、自分たちの楽しみのロングライフセンターでの娯楽を我慢することによって、十分貢献しているお年寄りの方々の目に見えない協力も、忘れてはいけなかったと思います。